

告示	番号	15	内分泌疾患
	疾病名	グルカゴノーマ	

グルカゴノーマ

ぐるかごのーま

概念・定義

主に腺に発生する腫瘍からのグルカゴン分泌過剰による疾患。

症状

遊走性壊死性紅斑、耐糖能障害や糖尿病、低アミノ酸血症、低アルブミン血症、体重減少、貧血などがある。また、静脈血栓症や精神神経症状(失調症状、認知症、視神経萎縮、近位筋筋力低下も認められる。遊走性壊死性紅斑がない場合もある。壊死性遊走性紅斑はグルカゴノーマ症候群の70%にみられるもっともありふれた所見である。はじめ紅斑性丘疹や紅斑の形で、会陰部や鼠径部に生じ、それが四肢に遊走していく。次第に大きくなって融合し、中央に青銅色の硬結が生じ、周囲には痂皮・落屑が形成され、痛みやかゆみが生じる。粘膜にこのような病変が遊走すると舌炎、口角炎、口内炎、眼瞼炎などになる。体重減少は65%に、糖尿病は50%にみられる。正球性貧血は約30%。消化器症状は下痢、便秘、食欲低下、腹痛がある。下痢は約20%に生じるが、この原因として

この腫瘍から同時に出されるセロトニン、VIP、ガストリンなどが関与していると考えられている。精神神経症状は約20%に認められ、うつ状態が認められる。深部静脈血栓症が10~15%にみられるが、これは致命的な状態になり得る。毛髪が細くなったり、うすくなったりすることもある

治療

外科的切除が治癒させうる唯一の治療法であり、グルカゴノーマの診断が確定した時点で外科切除を考慮する。内分泌症状の緩和にはソマトスタチンアナログが有用である。遊走性壊死性紅斑にアミノ酸と脂肪酸の定期的輸注が有効である

抜粋元：http://www.shouman.jp/details/5_33_76.html